令和５年度　近畿老人福祉施設協議会
災害対策委員会【報告書】

本報告書は、令和５年度 近畿老人福祉施設協議会　災害対策委員会メンバーが、
委員会活動を通じて意見交換した内容をまとめたものです。
各施設の立地による災害想定や、施設の実状を踏まえた内容となっております。

令和６年３月時点

●令和 5 年度　災害対策委員名簿

No.	府県名	氏名	法人名	施設名
1	滋賀県	堤　洋三	(福)六心会	清水苑
2	京都府	荻原　理	(福)倣襄会	地域密着型特別養護老人ホームあゆみ
3	京都市	溝口　武美	(福)北桑会	なごみの里
4	大阪市	田中　綾	(福)ジー・ケー社会貢献会	グルメ杵屋社会貢献の家
5	堺市	古川　英宏	(福)堺福祉会	ハートピア堺
6	兵庫県	髙松　竜平	(福)真澄会	博寿苑
7	神戸市	下田　修司	(福)すみれ会	長田すみれ園
8	奈良県	玉利　佳代子	(福)豊生会	ゆぁほうむ榛原
9	和歌山県	切士　桂	(福)高瀬会	古座川園

●令和 5 年度　活動内容

期　日	会　場	人員	主 な 議 題
R5.05.23	オンライン （Zoom 開催）	7	・令和 5 年度委員の紹介 ・令和 5 年度　活動計画について ・各府県での取り組み状況、意見交換
R5.08.22	オンライン （Zoom 開催）	9	・各府県での取り組み状況共有、意見交換 ・活動報告の作成について
R5.10.10	オンライン （Zoom 開催）	8	・視察研修会の開催について ・各府県での取り組み状況共有、意見交換
R5.11.02	長田すみれ園 （神戸市長田区）	13	【視察研修】 ・施設周辺立地～施設内の見学 ・防災・地域活動に関する意見交換
R6.01.31	オンライン （Zoom 開催）	6	・視察研修報告 ・令和 5 年度活動の振り返り ・令和 6 年能登半島地震についての意見交換
R6.03.07	オンライン （Zoom 開催）	6	・令和 6 年能登半島地震についての意見交換 ・活動報告、アンケートの取りまとめについて

★施設基本情報・地域の特徴と災害想定

社会福祉法人 六心会（ろくしんかい）　特別養護老人ホーム清水苑（せいすいえん）

（ 所属老施協 ：一般社団法人 滋賀県老人福祉施設協議会 ）

〒529-1441　滋賀県東近江市五個荘川並町268番地
❑WEB サイト https://www.rokushinkai.com/seisuien/

https://goo.gl/maps/o6qFd9RoeC59Beat5

❑地域の特徴（概要）

- 施設背後に繖山（きぬがさやま）を控えている。この山は琵琶湖の東に位置する山で、観音寺山とも呼ばれる山。この地域は、古来、歴史に深く関わっており、古墳・寺院・城跡が多いが、繖山には観音寺城跡と西国観音巡礼第 32 番札所の観音正寺がある。
- 施設の東部 1.45 ㎞に一級河川愛知川（えちがわ）が流れ、12 ㎞先の琵琶湖へそそぐ。愛知川は琵琶湖河口付近で過去に数回氾濫し、死者も出ている。

❑災害種別・ハザードマップ上の被害想定

- 令和 3 年 6 月 30 日東近江市から文書により、
  ・土砂災害警戒区域……建物の一部　・洪水浸水想定区域……1.0m～2.0m
- 水防法等に基づく避難確保計画作成等の義務化対象とならない災害リスク。県条例に基づき公表。
  ・地先の安全性マップ　200 年確率　0.5m 未満

❑自治体との協定

- 2013（H25）年 12 月 25 日　東近江市　福祉避難所の設置運営に関する協定書

★法人・施設の取り組み

❑BCP 策定上の工夫や特徴

- 専属職員の雇用
  事業継続には建築物維持管理にかかる詳細の把握等が重要。そのため、施設の設備・営繕に従事する専属の職員を雇用。平時の備え（含対自治体、消防関係）、非常災害時復旧、CADによる図面製作等を担当していただいている。

- 入所者の避難について
  土砂災害、洪水浸水とも、館内避難を想定。
  （計画の前提）災害発生時刻を予見するのは不可能なため、管理者、指示出し役の不在下に、現場のみで生命維持・安全確保ができるようにすることを目的としている。

❑組織内連絡手段（使用ツール等）

- LINE WORKS（有料版）
- aipo（スケジュール管理アプリ　管理職および事務系職員のみ使用）

❑職員への周知徹底や情報共有の工夫

- 近年、豪雨にて施設前の河川が氾濫する場合が多い。
- LINE WORKSにて、現場写真をリアルタイムで職員へ一斉送信している。通勤途上の注意喚起含め、画像のインパクトは大きい。

※令和２年８月の豪雨により、施設前の道路が冠水した様子。
茶褐色の濁った水が路面を覆っている。

❑地域との連携

- 防災連携会議について

地域住民さんと防災について、定例会議を継続している。
開催頻度 ： 隔月
メンバー ： 地元自治会正副会長、元役員（防災士）、隣接の養護老人ホームきぬがさ経営層、特養清水苑地域支援担当
緊急連絡手段として、ライングループを組織。備蓄品リストを３者で共有している。
秋の防災訓練等 共同開催。今後 協定の見直し等を図っていきたい。

☆所属老施協における災害対策に関する取り組み

- 災害対策委員会は不定期で開催。
- 令和6年能登半島地震における支援活動は以下の通り。

しがDWAT（災害派遣福祉チーム）への参画
（1）派遣先 石川県1.5次避難所、及び志賀町指定避難所
（2）ご協力いただいた法人 11法人
（3）派遣した職種 社会福祉士等
（4）派遣期間 1月12日～3月8日（金）
（5）派遣人数 老施協として14名（県全体としては延48名派遣）

- 能登半島地震被災施設の直接支援

能登福祉救援ボランティアネットワーク（佛教大学 専門職キャリアサポートセンター専任講師 後藤至功 氏）を窓口とし、職員派遣等の被災地支援を実施した。

(1)派遣先　高齢者グループホーム　なかよし　避難先(自立支援センターみずほ)
　　住所　石川県鳳珠郡能登町瑞穂119−2　自立支援センターみずほ
(2)ご協力いただいた法人　9法人
(3)派遣した職種　介護職員
(4)派遣期間　令和6年3月～5月、延60日
(5)派遣人数13名
(6)その他
　被災施設支援 応援派遣に関する会員向けオンライン説明会の実施
　令和6年3月26日(火)11:30～12:30

★施設基本情報・地域の特徴と災害想定

社会福祉法人 倣襄会（ほうじょうかい）　地域密着型特別養護老人ホーム あゆみ

（ 所属老施協 ：一般社団法人 京都府老人福祉施設協議会 ）

〒621-0826 京都府亀岡市篠町篠下中筋 43-3
❑WEB サイト http://www.kameoka-ayumi.com

https://goo.gl/maps/9dNmWKtkrGTY21r36

❑地域の特徴（概要）

当施設は亀岡市東部地域（篠町）に立地しており、京都市内の入り口にあたります。古くからの農村地域と京都市内のベッドタウンが混在する亀岡市内でも比較的人口が多い地域となります。
・亀岡市全域
　世帯数：40,395、人口 86,693 名
・上記のうち、施設近隣（篠町＋つつじヶ丘地域）
　世帯数：13,693、人口 31,394 名
（令和6年 3 月1日現在）
名所・観光：保津川下り、トロッコ列車、ラフティング
名産：篠大根（かぶら）千枚漬けの原材料、ハバネロ など

❑災害種別・ハザードマップ上の被害想定

- 殿田神吉越畑断層、亀岡断層上に立地。最大想定震度：6 強地域
- 洪水ハザードマップ：0.5～1.0m未満
- 土砂災害ハザードマップ：区域外

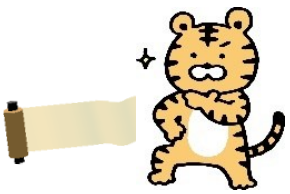
❑自治体との協定

- 法人保育園ホールが臨時避難所に指定。
- 東部地域には福祉避難所は、以前から老人保健施設が指定。
  （※亀岡市と全福祉施設との災害に関する協定などは現在まで無し。）
- 京都府災害派遣福祉チーム（京都 DWAT：府老協・ケアマネ協推薦）に参画及び育成、派遣。

★法人・施設の取り組み

❑BCP 策定上の工夫や特徴

- 地域の特性上、BCPは地震、風水害、火災、感染症に絞って策定済み。
- また、行政等の書式等を使用せず、法人独自で虎の巻（要約書？）立案、周知。



❑組織内連絡手段（使用ツール等）

- 高齢部門全従業員 LINEWorks を活用中。各員会活動、議題集約、議事録、全体周知（掲示板）など
- 法人として緊急連絡網（一斉メール配信）を構築済み。
  ※メールアドレスの更新が問題 ☛ 携帯電話の機種変更後など、個人からの申し出により都度、変更。

❑職員への周知徹底や情報共有の工夫

- 毎月高齢部門で防災対策(BCP)委員会を開催。年間計画及び防災訓練の実施。
- 委員会活動報告は、LINEWorksを活用して全職員に周知(掲示板)
- 現在Googleワークスペースと連動させ、動画マニュアルの作成など企画立案中。
  (防災設備の使用方法、発生時の対応方法、備蓄品の場所及び活用方法など)
- 法人情報通信担当者(元SE)を専任で配置している。

❑地域との連携

- 地元自治会長や民生児童委員正副会長が運営推進会議に毎回参加して頂いている中で、今後の連携等協議中。
- 近隣地域(区)とは、臨時避難所の確認や備蓄品の説明済み。今後、火災や自然災害発生時の具体的な互恵関係の構築に模索中。
  ※福祉避難所に指定されていないが、法人内では地域住民が避難去れてくることを想定して BCP を策定中。

❑これイチオシ！(防災設備や備蓄物品のおすすめ)

- 国の補助金を活用して LP ガスでの非常電源設備(初動 72 時間)の設置工事中(R6.3 月時点)

- Jackery Solar Generator
  ポータブル電源 ソーラーパネル セット
  以前はガソリンの発電機利用していたが、匂いや音の問題があって使い辛かった。
  こちらは容量も大きいものもあり、実状に合わせて選びやすい。
  充電しやすく長持ち。
  (参照：https://www.jackery.jp/)

☆所属老施協における災害対策に関する取り組み

- 委員会･研修会等の開催
  災害対策委員会設置はないが、総務部会が災害対策担当。年3～4回程度委員会開催。
  システムメール同報システム((株)アルカディア)府老協の災害ネットワークの維持管理(担当窓口の確認更新作業)及び年1回の模擬通知訓練の実施。

- 会員への情報発信
  2019年9月1日～緊急ネットワークシステム運用開始
  現在、既に活用しておりますメール同報システム((株)アルカディア)を機能向上させることによって災害や緊急時の際に、会員が情報共有や協力体制を迅速に行えるよう24時間365日、自動で通報及び情報取集(アンケート機能)を行うことを目的としたシステムです。
  本ネットワークは発信訓練を定期的に実施(年1回を予定)

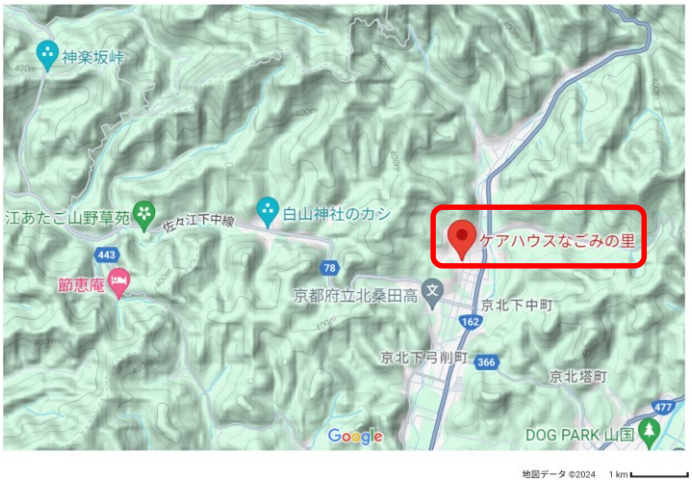
- 2023年6月～府老協感染症対応備蓄キット(対象:会員入居施設120)配布開始。更新及び補充も継続的に運用中。
  内容:N95マスク20枚＋袖付エプロン120枚＋ゴーグル20個(概ね72時間対応分)
  相互支援体制の構築中(圏域単位、ブロック単位、近隣施設単位)。取りまとめは府老協事務局。

★施設基本情報・地域の特徴と災害想定

社会福祉法人 北桑会（ほくそうかい） ケアハウスなごみの里

（ 所属老施協 ：一般社団法人 京都市老人福祉施設協議会 ）

〒601-0532 京都府京都市右京区京北上中町宮ノ下 22
❑WEB サイト https://www.hokusoukai.com/houwaen/



https://goo.gl/maps/cAzNFK3Ba5RwdxQc8

❑地域の特徴（概要）

- 森林と農地が大半を占めており、豊かな自然に恵まれた環境。冬は積雪のある地域。主要道路国道162号線は山間部を通る片側1車線の道路で、一部では道幅の狭い区間があり、大雨による崖崩れや倒木で通行止めになることがある。
- 施設の所在地である京北地域は、平成の大合併により、平成17年4月に京都市に編入となった地域である。

❑災害種別・ハザードマップ上の被害想定

- 土砂災害警戒区域

❑自治体との協定

- 京都市より福祉避難所の指定を受けている。
- 消防団協力事業所として市に登録。

★法人・施設の取り組み

❑BCP 策定上の工夫や特徴

- 西側の山側からの土砂災害警戒区域に指定されているが、建物が平屋建てで垂直避難が出来ない為、近くの元小学校（近隣の避難場所）に避難する想定。
- 洪水浸水区域の指定はないが、中庭に雨水が溜まり、床上浸水した経験から、大雨警報時の避難も想定。

❑組織内連絡手段（使用ツール等）

- LINE、携帯電話

❑職員への周知徹底や情報共有の工夫

- 防火防災委員会から各部署へ周知。
- 警報発令時、主任以上を招集し対策本部設置し情報共有を行う

❑地域との連携

- 男性職員の中に消防団員がおり、有事の際には地元消防団の協力は得られるが、正式に取り決めができていないため、今後話を詰めていく予定。

❑これイチオシ！（防災設備や備蓄物品のおすすめ）

- LPガス非常用発電機（左）
- ガスパルク（右）が満タンであれば、3日間発電可能。
- ガスパルクは炊き出し用コックがあるので、災害時は地域の方も使用可能。

☆所属老施協における災害対策に関する取り組み

- 災害発生時の支援活動などを行う組織として事業継続検討プロジェクトを設置
- 2021年に施設長管理職研修として「BCP作成研修（風水害を中心に）」を実施、今年度については未定
- 毎年、京都市災害時要配慮者避難支援推進会議と「福祉避難所移送対象者の選定方法及び受入調整等に関するガイドライン」等に書係る机上訓練に出席
- 京都府災害派遣福祉チーム（京都DWAT）に協議会として参画

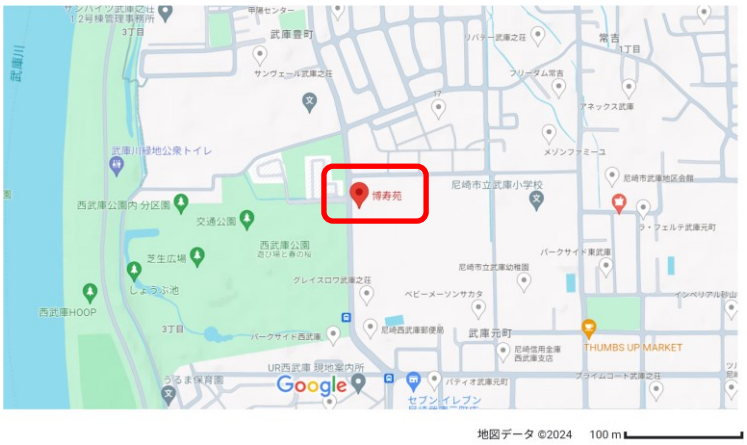
コロナ発生直後の2020年に結ばれた京都市と京大病院との包括連携協定の一環として、高齢者福祉施設に平常時から見守りやアドバイスなどを行っていただいていた京都大学大学院医学研究科・医学部教授の長尾美樹氏と、京都市老協でアドバイザー契約を結ぶことが決定した。（令和5年8月）

★施設基本情報・地域の特徴と災害想定

社会福祉法人 真澄会（しんしょうかい）　特別養護老人ホーム博寿苑（はくじゅえん）

（ 所属老施協 ：一般社団法人 兵庫県老人福祉事業協会 ）

〒661-0043　兵庫県尼崎市武庫元町２丁目23番15号
❑施設 WEB サイト http://hakujyuen.or.jp



https://goo.gl/maps/LdFWpCegpnc3Y4kH9

❑地域の特徴（概要）

- 尼崎市は、兵庫県の南東部に位置する中核市及び中枢中核都市で、令和6年3月時点での人口は454,024人です。そのうち武庫地区の人口は74,481人となっており、阪急「武庫之荘」駅からバス便になるエリアです。
- 地域には商店街があり、生活施設は近隣に充実しています。一部地域では田畑が多くあり、狭い道も見られます。
- 日本で最初の交通公園である『西武庫公園』は桜の名所としても有名で、花見の季節には屋台が出るなど多くの人で賑わいます。武庫川河川敷は、日曜日には交通規制がかけられ、四季の移り変わりを楽しめる散歩コースとなっています。

❑災害種別・ハザードマップ上の被害想定

- 洪水ハザードマップ（3～5m）
- 地震ハザードマップ（震度 7 以上）

❑自治体との協定

- 津波等一時避難所
- 福祉避難所

★法人・施設の取り組み

❑BCP 策定上の工夫や特徴

- 地域や企業開催の防災研修・これまでに受けた県の老人福祉事業協会の研修を元に BCP を策定。内容を充実させる為に、訓練の実施が必須と考えています。
- 毎月開催の災害対策委員会や管理者会議内において情報を収集。
- 令和5年度の施設内防災訓練実施頻度は年2回。訓練内容を委員会で考える事で現在の利用者個々の避難方法や手段の検討に現実味が増して行う事ができました。また、初動対応だけでなく事業継続という点についての意識が増したと共に、食料や水、避難スペースの確保の問題認識も深まり、協議と訓練を継続して行っています。

❑組織内連絡手段（使用ツール等）

- 現在は主に LINE を使用。LINEworks の活用を検討中。

❑職員への周知徹底や情報共有の工夫

- 主として施設内で毎月開催している災害対策委員会で情報を共有しています。

❑地域との連携

- 地域の自治会と季節の祭りやイベント等で相互協力。
  地域自治会開催の避難訓練や他法人で行なわれた避難訓練に参加し、施設のBCPにとって必要な情報収集に取組んでいます。地域の避難訓練内容は、基本的に地域の方々の初動避難が主たる内容であるので、今後は施設の避難訓練に自治会も参加していただく必要性を感じています。
- 行政とは、施設非難に関しては参加した避難訓練の場や施設長会において重層的支援推進担当の課長とコンタクトをとっており、施設の状況や避難時の対応などにおいて協議を深めていきたいという意向を伝達している。 自法人の地域包括の避難訓練を他法人の地域包括と共同で行なう構想もあり、包括支援担当との協議も行なっていく計画にしています。

❑これイチオシ！（防災設備や備蓄物品のおすすめ）

- LPガスを燃料とする50kw発電機を2機設置。停電時に一部のエアコンとエレベーターの使用が可能となる事を想定しています。

※写真はデンヨー株式会社の WEB サイトより抜粋
https://www.denyo.co.jp/products/leg-54ust2/

※施設設置の物は、「三相機　LEG一54UST」

☆所属老施協における災害対策に関する取り組み

- 令和３年度～調査研究委員会において「感染症対策及び BCP の取り組み状況について」をテーマに、モデル施設の選抜と作成された BCP マニュアルの報告会を実施。報告書を会員施設に配布。令和5年度では、ブロック内で BCP 研修を実施するなど対策を深める活動を行っている。
- 能登半島地震被災地に対して義援金を送るなど、令和 6 年度も被災地支援に関して出来る限り息の長い支援の取り組みを行う計画としている。

★施設基本情報・地域の特徴と災害想定

社会福祉法人 すみれ会　特別養護老人ホーム長田すみれ園

（ 所属老施協 ： 一般社団法人 神戸市老人福祉施設連盟 ）

〒653-0879　神戸市長田区雲雀ケ丘１丁目１番３号
❑施設 WEB サイト http://hakujyuen.or.jp

https://goo.gl/maps/bSkWk1GhHTuhi5GG6

❑地域の特徴（概要）

- 世帯数 50,413、推計人口 92,729 人
  （令和６年２月１日時点）
  ※神戸市「毎月推計人口」参照
  https://www.city.kobe.lg.jp/index.html
- すり鉢状の急斜面に住宅地があるため、急な坂や階段が多い。
- 近年は人口が減少、高齢化率は 40%を超える。
- 日常のゴミ出しが困難な高齢者もいるため、居宅介護支援事業所と相談の上、朝のデイサービス送迎時にゴミステーションまで搬出するサービスを無料で行っている。

❑災害種別・ハザードマップ上の被害想定

- 土砂災害警戒区域が地域に多く指定されており、地震及び大雨等により、土砂崩れの危険がある。

☜ 神戸市長田区
ハザードマップ参照

❑自治体との協定

- 神戸市老人福祉施設連盟と通じ、神戸市と福祉避難所としての契約
  ❑災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定（H24 年１月 11 日）
  ❑災害時における相互協力に関する協定書（令和３年３月 26 日）

- 課題と感じている事
  災害時、要援護者の受け入れや支援物資の調達依頼等の連絡先について、一本化していただけるのか？

★法人・施設の取り組み

❑BCP 策定上の工夫や特徴

- 法人内には神戸市内に特養４か所運営しており、令和７年には、認知症グループホーム及び住宅型有料老人ホーム（合計定員 45 名）が開設予定である。最も離れている事業所間で約 30 キロの距離（その中に４施設運営）なので物資、人員等相互援助体制を取ることができる。

❑組織内連絡手段（使用ツール等）

- LINEWORKS を災害時の主たる連絡手段としている。電話による連絡は補助的に使用する。

❑職員への周知徹底や情報共有の工夫

- LINEWORKSを利用。

❑地域との連携

- 日常的に、地域の自治会である丸山地区自治会、当該施設の位置する学区の雲雀丘中学校および丸山ひばり小学校と連絡を取り合い交流を深めている。具体的な協力体制等の協定等を交わしているわけではないが、いざというときに顔の見える関係は構築できている。

- 災害時、長田すみれ園として「できること。」を地域の自治会と話し合い、自治会からの要望等を伺いながら、より実効性のある対策としていきたい。また、兵庫県社協と経営協が推進する「ほっとかへんネット（社会福祉法人連絡協議会）」において取り組むフードドライブ事業の一環として、地域住民への食料備蓄のあり方等も検討していきたい。

※食料倉庫内備蓄の様子。

☆所属老施協における災害対策に関する取り組み

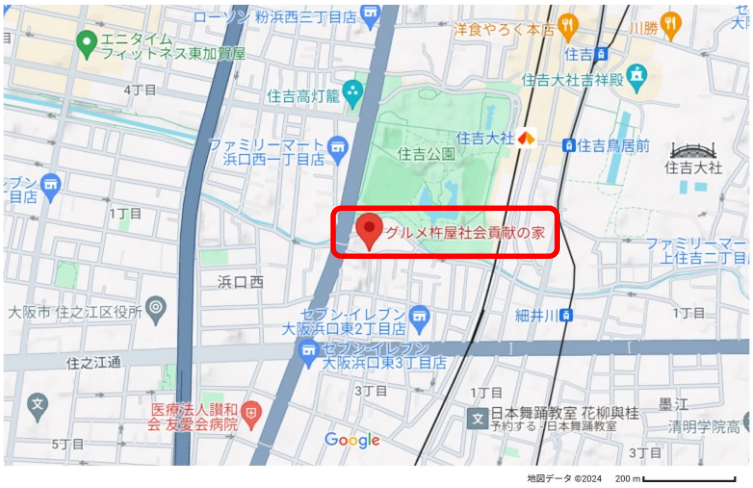
- 令和4年度に神戸市老施連様式としてBCP計画書作成した。
- 令和5年度の委員会開催は4回、うち1回はBCP作成の支援を目的とした研修会を開催。
- 神戸市からの要請で、福祉避難所の訓練を、毎年モデル施設を数施設選定して行っている。令和5年度は23施設で実施。市の担当者からは、マニュアルは事前に覚えておき、実際の訓練の際はマニュアルを見ずに行うよう指示があり、段ボールベッドの購入費などに充てられるよう、市からは10万円の助成金が出る。

★施設基本情報・地域の特徴と災害想定

社会福祉法人 ジー・ケー社会貢献会　特別養護老人ホーム グルメ杵屋社会貢献の家

（ 所属老施協 ： 一般社団法人 大阪市老人福祉施設連盟 ／ 大阪府社会福祉協議会 老人施設部会 ）

〒559-0002　大阪府大阪市住之江区浜口東 2-5-14
❑施設 WEB サイト　https://www.gksc.jp/



https://goo.gl/maps/bSkWk1GhHTuhi5GG6

❑地域の特徴（概要）

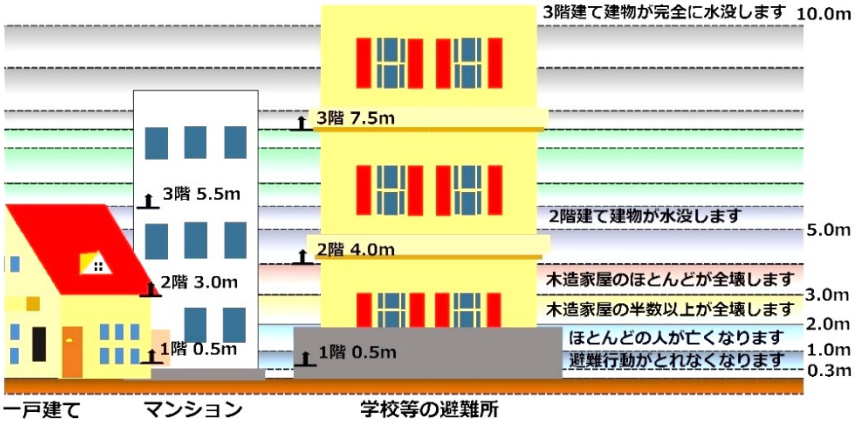
- 大阪市の湾岸部南端に位置し、北部は木津川に、南部は大和川に、西武は大阪湾に接しており、面積は 20.68 ㎢と大阪市 24 区中で最大です。
- 人口は、現在約 11 万 7 千人となっており、大阪市では第 9 位です（令和 5 年 9 月 1 日現在推計人口）。
- 昭和 49 年（1974）年に住吉区の分区により誕生した住之江区は、古くは、区の東部地域（粉浜・安立）までが海に面しており、住之江区の大半は、大和川の付け替えとそれに伴う浅瀬の拡大や加賀屋甚兵衛による新田開発等により、西へと拡大してできた陸地です。

（参照 https://www.city.osaka.lg.jp/suminoe）

❑災害種別・ハザードマップ上の被害想定

- 大阪市住之江区では、大和川の氾濫、高潮及び内水氾濫による浸水と東南海・南海地震及び南海トラフ巨大地震による津波浸水が想定されています。
- 南海トラフ巨大地震の住之江区の被害想定は震度 5 強～6 弱、長い時間揺れが続くため液状化の可能性もあります。また、警戒しなければいけないのは津波で、約 5m の津波が 110 分後に到達すると想定されています。

（参照：住之江区ホームページ）



❑自治体との協定

- 2011年（H23）7月 「大阪市における災害時に福祉避難所をして介護・高齢者施設等を使用することの覚書」 大阪市長と大阪市老人福祉施設連盟代表理事で覚書押印
- 2011年（H23）8月「各区における災害時に福祉避難所をして介護・高齢者施設等を使用することの覚書」 各区役所と大阪市老人福祉施設連盟施設が協定締結

※協定締結以降、区・施設の状況アップデートができていない。施設側としては、BCP 策定、緊急受入施設の位置づけに伴い内容見直しを依頼中。

★法人・施設の取り組み

❑BCP 策定上の工夫や特徴

- 入居者、利用者、職員、関係者の生命を第一優先
- 実現可能なものを策定するべく、年に1度見直しをし、改定していく。
  ※BCPは自法人、自施設、一つの事業だけで運用できるものではないため、策定過程において法人職員、近隣法人、区、近隣住民の方々と意見交換する機会をつくりたい。

❑組織内連絡手段(使用ツール等)

- PC、タブレット、スマートフォン　…サイボウズ Garoon メッセージ
- タブレット、スマートフォン　……LINEグループ

❑職員への周知徹底や情報共有の工夫

- 年に2回の訓練。
- 備蓄品試食時に入居者・利用者・職員への周知

❑地域との連携

- 地域の避難訓練参加
- 年2回の地域高齢者食事会の際に、意向確認。
- 障がい者自立支援協議会メンバーと区内福祉避難所見学。障がい者当事者会のメンバーと避難経路下見まちあるきの実施。

❑これイチオシ！(防災設備や備蓄物品のおすすめ)

- サントリー飲料自販機　ワイヤー式緊急時飲料提供ベンダー

  緊急(無電状態)時でも開閉できます。ワイヤーを引くことで飲料提供が可能です。バッテリーを搭載していない為、設置期間中、バッテリー交換が不要です。

※説明文　サントリーHP より引用
(https://www.suntory.co.jp/group/sbs/business/vending/disaster/)

☆所属老施協における災害対策に関する取り組み

- 災害対策委員会は定例で年6回開催。

  内部研修会の企画・運営、災害時応援協定の運用支援、BCP策定支援、行政への意見要望内容の話し合い、防災通信発行（視察や研修会内容報告）

- 有識者による　福祉施設としての研修、福祉避難所・緊急避難所としての研修
- 市内施設職員による　福祉施設としての研修、福祉避難所・緊急避難所としての研修
- BCP作成研修
- 防災シンポジウム
- 災害時相互応援協定フォローアップ研修
- 自然災害BCP座学、意見交換（入居編・在宅編）
- シナリオ型防災訓練から実践型防災訓練（大阪市危機管理室共催）
- 自然災害BCP個別訪問相談事業（20施設2回1セット）、広域避難対応連携（2施設）
- 大阪市危機管理室・福祉局と「大阪市高齢者施設等防災マニュアル」「福祉避難所・緊急入所施設運営マニュアル」の改定、「災害時用配慮者支援プランガイドライン」作成に向けた意見交換。

  ⇒これまでは隣接区での対応としていたが、大阪市内の沿岸部（此花区、港区、大正区、住吉区など）では隣接区でも高潮被害等の状況は一様ではないかとのことから、もう少し広域で支援しあえるよう市内を6ブロックに編成し直す方向性。

- KISA2隊（きさつたい）の大阪支部に協力を依頼し、感染症に関する研修会を本年度は3回実施。

★施設基本情報・地域の特徴と災害想定

社会福祉法人 堺福祉会　特別養護老人ホーム ハートピア堺

（ 所属老施協 ： 大阪府社会福祉協議会 老人施設部会 ／ 堺市老人福祉施設部会 ）

〒590-0982　大阪府堺市堺区海山町3丁150－1
❑施設 WEB サイト　https://heartpia-sakai.or.jp/

https://goo.gl/maps/gbLDg6JUZVZhsKB29

❑地域の特徴（概要）

- ハートピア堺が所在する三宝校区は、堺市の最北端に位置し、北は大和川、西部は大阪湾に臨んでいる。臨海部は鉄鋼業を中心とした中小の工場や高速道路があり、臨海線、26 号線など大きな道が通っている。津波時に浅香山方面に避難を求められているが、校区の住宅から 3～5km程度距離があり、歩いていくのに困難な方が多い。

（三宝校区） 令和 5 年 3 月末時点
総人口:13,845 名
高齢者数:3,384 名(24.44%)
独居高齢者数:1,176 名(34.75%)
要支援要介護認定者数:858 名

❑災害種別・ハザードマップ上の被害想定

- 津波ハザードマップ(南海トラフ沖地震想定):浸水 0.3～1.0m未満
- 洪水・土砂災害ハザードマップ(大和川):0.5～3.0m未満
- 高潮ハザードマップ:浸水 3.0～5.0m未満

❑自治体との協定

- 堺市より福祉避難所の指定を受けている。

★法人・施設の取り組み

❑BCP 策定上の工夫や特徴

- モデル事業にて、三宝校区自治連合町会、堺市長寿支援課、堺市危機管理室と一緒に話し合いを重ねBCPを作成した。
- 食料品等に関しては、堺市内の特養と任意で被災ない所からの物資援助協力の約束をしている。
- 施設長の電話を災害時優先電話に指定している。

❑組織内連絡手段（使用ツール等）

- LINE WORKS を使用したスタッフへの情報発信、情報共有を行っている。
- 今後、LINE WORKS の有料化に伴い、令和 6 年度より、サークルスクエアを導入予定。
- 施設長への連絡はショートメッセージ又はE-mail でのやり取りも行う。

❑職員への周知徹底や情報共有の工夫

- ハートピア堺施設課、在宅課、相談支援室を含めた防災委員会を設置し、年に2回の研修会、避難訓練を実施している。
- 情報共有ツールとして、Kodak(コダック)と一緒に回覧システムを共同開発し、全スタッフがもれなく確認できるようにしている。
- 「専門職としてプライドを持てるようになる」をテーマに施設全体で研修を行っている。
  通常研修、各委員会からの研修、外部研修受講者による伝達研修が基本であるが、別に等級毎の階層別研修、外部講師を呼んでの専門職研修があり、スタッフの内省から成長を図る為の研修プログラムを組んでいる。
  こうした研修システムが特に評価され、令和5年8月「介護職員の働きやすい職場環境づくり厚生労働大臣表彰　優良賞」を受賞している。

施設研修

毎月第3土曜日にスタッフ全員で

階層別研修

等級や役職ごとに

専門職研修

大学でのチームビルド研修

外部研修

ファーストステップ研修、認知症実践者研修etc

❑地域との連携

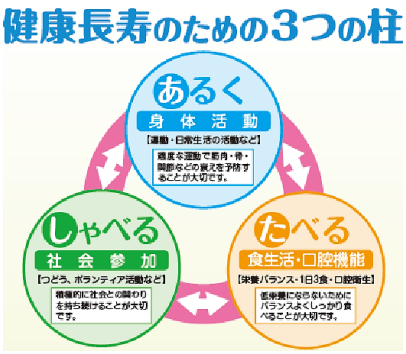
- 三宝校区は、災害時の校区のスローガン『住民全員が生き残る！』を基に「自分たちの校区は自分たちで守る」という心構えで、災害に強いまちづくりを進める。
- 平成 30 年、校区で『三宝校区地区防災計画カルテ』(地域防災計画)が作成され、関係機関の役割について明確化されている。
- 平成 30 年、26 号線以西にスーパーがなく、買い物に苦労している方がいること分かり、生協に声を掛け、三宝校区に移動スーパーの導入を行う。また、その後、英彰校区でも同様のニーズがあると自治連合会より声がかかり、導入することとなった。

※移動スーパーで買い物される近隣住民の方々。
　ハートピア堺の敷地内にも巡回に来ていただきます。

- 平成 27 年、三宝校区を中心に高齢、障がい、子どもの機関(子ども園、幼稚園、小学校)と三宝校区防災協議会を立ち上げている。
- 三宝校区自治連合協議会、連合子ども会、関西大学と一緒に防災訓練または三宝防災キャンプを毎年実施している。
- 大阪府内4施設合同での防災訓練を年に数回実施しており、スタッフ研修を含めた協力体制の構築を進めている。
- 平成28年、地域の誰でもふらっと立ち寄れる場、懐かしミュージアムふらっと三宝を一緒に開設し、校区と協働している。その活動の中でノルディックウォーキングが活発となり、民生委員会、校区福祉委員会がポール54本を購入してもらえた。同年それを使用して避難を想定した防災訓練を実施した。

● ポールウォーキング（防災ウォーキング）の実施
避難のための3～4kmを歩けるようにしておく重要性を説明し、住民への理解を深める。

● 懐かしミュージアム・ふらっと三宝
三宝校区と協働して設立した、誰でも参加できる自由なサロン。
地域の校区福祉委員会、社会福祉法人、社会医療法人と共催している。



● 堺市介護予防「あ・し・た」プロジェクト
（参照：https://www.city.sakai.lg.jp/kenko/fukushikaigo/koreishafukushi/kaigoyobo ）

❑これイチオシ！(防災設備や備蓄物品のおすすめ)

- キャンプ用のエアマット、寝袋でベッドの提供が難しい場合の対応ができるようにしている。

（エアマット完成形）

（連結可能）

（寝袋との組み合わせ）

- 嚥下能力低下している方向けに、栄養補助剤(LIFE　STOCK)を在庫している。

☆所属老施協における災害対策に関する取り組み

- 堺市老人福祉施設部会で、大学、短大、高校、消防、堺市と一緒に行う防災訓練を令和5年12月10日に実施した。
- 大阪府社協老人施設部会では、令和3年度にBCP策定のモデル事業を実施し、令和4年度には報告会を開催。モデル事業のBCPは「社会福祉法人らしさのあるBCP支援事業報告書」として、老人施設部会「さくら草ネット」の刊行物からダウンロード可能。
- 大阪府社協老人施設部会の特養分科会として、令和5年2月から4月にかけて備蓄品の在庫チェックリストを作成し、アンケート調査を実施した。

★施設基本情報・地域の特徴と災害想定

社会福祉法人 豊正会　特別養護老人ホーム ゆぁほうむ榛原

（ 所属老施協 ： 奈良県老人福祉施設協議会 ）

〒〒633-0203　奈良県宇陀市榛原長峯 200-1
❑施設 WEB サイト　http://www.e-yourhome.com/

https://goo.gl/maps/oAAipeEh2sxeNjpt9

❑地域の特徴（概要）

- 中心地（近鉄大阪線「榛原」駅）の周辺で、海抜 309m、当施設は海抜約 400m の山手であり、駅周辺に宇陀川が流れているが、施設までの距離は約 1.1km あり、水害は想定できない。
- 災害を想定するとすれば土砂災害であるが、ハザードマップにはかかっていない。
- 榛原地域（施設の所在地域）の世帯数は 6,722 世帯、人口は 14,597 人。宇陀市全域の高齢化率は約 44%となっている。

（令和 6 年 3 月 1 日時点）

❑災害種別・ハザードマップ上の被害想定

- 大雨による土砂災害等の被害想定。

❑自治体との協定

- 災害発生時における福祉避難所としての施設利用に関する協定書（平成 28 年　締結先：宇陀市）

★法人・施設の取り組み

❑BCP 策定上の工夫や特徴

- 年2回、地震、土砂災害を想定した避難訓練、机上訓練を実施。机上訓練では災害想定に応じた判断、適切な対応指示等のトレーニングを行い、BCPの改定につなげている。
- 奈良県の山間部に位置する施設で高齢化率が非常に高く、地域に高齢者世帯が多いことを踏まえ、UTR（宇陀多職種連携の会）、宇陀けあネットの活用も含めた市内事業所における医療・介護の連携をめざしたBCP策定の検討をすすめる。
- 令和6年4月20日宇陀市老施協会議において市内の特別養護老人ホーム5施設と宇陀市地域包括支援センター（医療介護あんしんセンター）、宇陀市危機管理課との災害時の対応、福祉避難所の運営についての計画、シュミレーションの実施を提案している。今後、実施内容をBCPに反映していく。

❑組織内連絡手段（使用ツール等）

- LINEWORKSを災害時の主たる連絡手段としている。
  常日頃から施設内連絡はできるだけLINEWORKSを利用し、電話による連絡は補助的に使用。
  メールでの連絡が行えるようメールアドレス連絡網を作成。

❑職員への周知徹底や情報共有の工夫

- 令和6年度より災害対策委員会を新設し、年2回の研修会、訓練の計画、実施ができるよう準備をすすめている。
- 自施設で作成したYouTubeを活用した研修会を試験的に実施している。今後も、全職員にBCPの内容が周知できるよう計画をすすめている。

❑地域との連携

- 市が開催した防災訓練（令和5年5月28日実施）に、地域住民として参加し、職員が地域住民と共に一時避難所まで移動した。内容としては、市内防災無線の吹鳴と同時に、地震の際の安全確保行動「まず低く、頭を守り、動かない」を身に着けるシェイクアウト訓練を実施し、市内各地域のまちづくり協議会、自治会、自主防災組織などと共に、職員が一時避難所までの避難訓練をした。
- 令和5年度は予定していないが、以前（令和3年度）に市の危機管理課との会議を実施した。
- 災害発生時には、宇陀市の医療介護あんしんセンターから福祉避難所の受け入れ等についての調整連絡が入る。同センターは宇陀市の健康福祉部内に位置しており、介護福祉課と連携している。

（【参考】宇陀市HP：https://www.city.uda.nara.jp/kaigoanshin/introduction.html）

- 令和5年度UTR（宇陀多職種連携）の会　研修会において、BCPの策定・推進におけるポイントをテーマに市内事業所とのグループワークを実施。多職種での連携をどのように図るか意見交換を行う。
- 担当ケアマネジャーと医療介護あんしんセンターが協力し、地域における要介護3以上・ハザードマップ上危険区域にお住まいの高齢者とハザードマップ区域外の要援護者をリストアップし、「災害時避難行動要支援者個別計画書」を作成している。

❑これイチオシ！（防災設備や備蓄物品のおすすめ）

25年貯蓄可能な非常食を備蓄している。

☆所属老施協における災害対策に関する取り組み

- 令和5年度時点では、奈良県老施協としての災害対策委員会や研修会等は実施予定なし。今後検討を進める必要性があると思っております。⇒令和6年度より委員会新設予定。
- 奈良県老施協の「災害初動時相互支援システム」により、災害時はブロック代表者のもとに被災状況の報告が入るようになっている。

★施設基本情報・地域の特徴と災害想定

社会福祉法人 高瀬会　特別養護老人ホーム 古座川園

（ 所属老施協 ： 一般社団法人 和歌山県老人福祉施設協議会 ）

〒649-4224　和歌山県東牟婁郡古座川町高瀬 353

❑施設 WEB サイト

https://goo.gl/maps/ixvWns2adnCKBMUr6

https://goo.gl/maps/ixvWns2adnCKBMUr6

❑地域の特徴（概要）

- 海岸線より車で 10 分程、古座川上流に向かった山間地域に施設群がある。過疎化が進み同地区の集落は高齢者が多い。そのような地区が町内に点在している。近くに公共施設などはなく、法人の福祉施設群があるのみ。災害時に他の地域からの応援は期待できない。
- 古座川町の人口は、令和6年3月時点で 2,350 人、高齢化率は令和4年度時点で 54%となっている。

❑災害種別・ハザードマップ上の被害想定

- 施設は洪水浸水地域（1.0m～2.0m）に想定されており、洪水被害のリスクが高い。実際に平成 23 年の紀伊半島豪雨災害では施設内床上 2 メートルの浸水があった。隣接する施設群の一部は、近年土砂災害警戒区域に想定されている。津波による浸水被害想定は区域外である。

◂ 平成 23 年 9 月 台風 12 号による「紀伊半島大水害」時の写真。
9/3 夜間、施設 2 階から撮影。駐車場に停まっていた車が水没し、車のランプが一斉に点灯している様子。

▾ 翌 9/4 朝の 1F の様子。

◂ 9/5 撮影。水が引いた後の車の様子。
泥の跡が見える。車は全て廃車になった。

❑自治体との協定

- 災害発生時における福祉避難所としての施設利用に関する協定書（H25年　締結先:古座川町）
- 火災または震災等が発生した時、救出救済を行うとともに被害を最小限に防止する事を目的とする応援協定を締結。(H19 年　締結先:高瀬区)(協定内容の見直し、再締結を検討中)

★法人・施設の取り組み

❑BCP 策定上の工夫や特徴

隣接した場所に施設群がある立地のため、非常時には法人内の連携により対応する。
BCPは事業所ごとの作成となるが、各事業所が法人内連携を想定しBCPを作成。

❑組織内連絡手段(使用ツール等)

各事業所の緊急連絡網を使用。
現在職員ほぼ全員がスマホを所有。

❑職員への周知徹底や情報共有の工夫

職員には災害時の対応に関するアンケートを実施し、非常時参集に対応可能な人数を確認済。

❑地域との連携

- 自治体の福祉関係部局以外の防災危機管理関係部局とも連携ができている。
- 地域住民等との防災訓練等を実施している。
- 山間部に集落が点在し、集落間の距離も長いという特徴から、 地域との連携については困難な面もあるが、周辺地区住民から避難の希望があれば受け入れるなど、地域の中の施設としてこれまでも役割を果たしてきている。
- 施設群においては 10～20 メートルの間隔で 4 つの建物が隣接し、その中に本部も含めて12の事業所がある。(下記地図参照)
- 災害発生時は、被災の状況により、被害の小さい事業所が被害の大きい事業所を支援するよう事業所間の協力体制をととのえている。

❑これイチオシ！(防災設備や備蓄物品のおすすめ)

かまど
浸水被害により厨房機能が使用できなくなった場合に備えて、炊き出し用かまどを設置。

ボート
浸水時の移動手段としてボートを準備している。
（平成 23 年紀伊半島豪雨災害時、浸水被害により事業所施設間をボートで移動した経験から。）

☆所属老施協における災害対策に関する取り組み

- 委員会は不定期で年2～3回開催（令和5年度実績1回）
- 令和5年度研修については全3回実施。（対面実施2回、オンライン実施1回）
- 県老施協独自でDWATを設置。登録後、数年経過しているため再登録を検討中。

●令和 6 年能登半島地震を受けて、緊急アンケート（2024 年 1 月 5 日発信）を実施しました。

（概要）
　元日に発生した令和 6 年能登半島地震では、幹線道路の被災が著しく、発生から 5 日経過しても孤立集落が多数発生、福祉施設への支援も困難を極めています。政府も事態を把握し、自衛隊・DMAT等の支援が進み、ここ数日で解消へ向かうと考えます。
　しかしながら、地理条件にもよりますが、大規模地震等で地域が広域で被災した場合、おおよそ 7 日程度は自力で施設機能を維持する必要があると、今回の事例で感じました。みなさんの施設では、どのような被害を想定され、対策・緊急時対応を想定されているか、わかる範囲でご記入ください。
（項目）
・水道（断水、受水槽破損や加圧ポンプ停止等）
・電気（大規模停電、受電設備の破損　等）
・冷暖房（停電等による空調停止　等）
・食料（厨房設備使用不可、食材配送の停滞　等）
・医薬品（道路遮断配送停止、調剤薬局の機能停止等）
・衛生用品（道路遮断、配送の停止　等）
・その他（近隣住民や在宅のご利用者分の避難場所及び物品）

所属施設	所在地市区町村	水道	電気	冷暖房	食料	医薬品	衛生用品	その他
清水苑	滋賀県 東近江市	土砂により受水槽が被災する可能性がある。 移設等はコストもかかり今後の懸案である	土砂により受電設備が被災する可能性が高い。 移設等はコストもかかり今後の懸案である。 電源喪失時対策は今後（EV（電気自動車）など、蓄電機能があるクルマ等の導入か）	受電設備の破損により、空調機器の電源が喪失する可能性大。 対策は今後検討。	厨房設備＝熱源はプロパンガス＋バルク貯槽、30 日分は備蓄、プロパン庫の破損可能性は高くない。 給食委託会社との危機時協定は今後見直し	コロナ禍踏まえ、配置医師（処方箋）→調剤薬局（薬剤配送）→施設の体制強化済み。	紙おむつはじめ、医療・介護衛生材料は 30 日以上の備蓄あり。	

所属施設	所在地市区町村	水道	電気	冷暖房	食料	医薬品	衛生用品	その他
亀岡あゆみ園	京都府 亀岡市	南海トラフ級(震度6強)断水～72時間想定。 給湯機内及び受水槽の水の活用(取出し蛇口設置)防火水槽内の水等を汚物排水用。(使用期限が切れた水も汚物処理用として保管継続している) 飲料水は100名の72時間分確保済み。	水道と同様想定。プロパンガス型非常用電源設備導入予定(R6 年3月)共有部分の照明、空調、厨房(冷蔵冷凍)電源確保。使用できない場合を想定。発電機(ガソリン:2機、カセットガス式:1機)、大型ポータブル電源(ソーラー発電)を4機導入済み	上記プロパンガス型非常用電源設備(72時間共有部分の空調起動可能)。万が一使用できない場合は、灯油ストーブ10機確保。下記は扇風機(サーキュレーター含)程度	非常用備蓄100名×72時間確保。(ようかんやパンなど過熱、調理等不要なものを中心。栄養補充及び水分補水＝介助不要なもの。	救命救急セットを各階に常備。入所施設の医務室でご入居者分は2週間程度確保。	トイレの処理キット(3000回分常備)、消毒等は常時6カ月程度の物品確保。	
ハートピア堺	大阪府 堺市堺区	28 日間の断水 水 120 ケース(1440 ﾘｯﾄﾙ)の備蓄。	発電機 3 台所持。 大型蓄電池、大型プロパン発電機の購入検討中。	1 週間の停電。発電機で2台のクーラー稼働を検討中。扇風機 2 台。寝袋・カイロで対応。	最低 5 日分の備蓄を所持。嚥下能力低い方向けに栄養剤の備蓄もあり。 カセットコンロ 4 台+防災倉庫分	2, 3 日の機能停止。 その後は他店舗と協力しての薬剤の確保を見込む。	2, 3 日の配送の停止。 在庫分にて対応。その後は配送の再開を見込む。	

所属施設	所在地市区町村	水道	電気	冷暖房	食料	医薬品	衛生用品	その他
グルメ杵屋 社会貢献の家	大阪府 大阪市 住之江区	貯水タンク内の水を入居者ケア優先に使用。1・2 階大浴槽内の水を使用。	特養入居者は入居時に懐中電灯を持参し居室棚へ常備。 医療器具:在宅酸素濃縮器→ボンベ 蓄電池設備商談中。	夏場はアイスノン、冬場は毛布で対応。	グループ会社からの支援相談中。	施設内診療所に抗生剤など臨時処方で頻度の高い錠剤、点滴　数種類ストック。 感染症検査キットストック。 医師、調剤薬局薬剤師と定期処方薬が途切れると直ちに体調変化のリスクが高い入居者をリストアップ中。	オムツは1週間分備蓄あり	
博寿苑	兵庫県 尼崎市	断水、加圧ポンプの停止により水問題の発生のリスクはあります。現状水の備蓄が十分ではなく、行政との協議も必用な事を市の重曹支援担当課に伝達している状況。	発電機を設置しているので、ある程度は対応可。但し激甚災害発生時は機能するかは不透明。	電気の項目に同じ。	利用者7日分の備蓄を確保。職員の避難や地域住民の避難を含むと不十分であるが、費用と保管場所に課題。	ライフライン断絶時は想定出来ておらず。	医療品の項目に同じ。	

所属施設	所在地市区町村	水道	電気	冷暖房	食料	医薬品	衛生用品	その他
長田すみれ園	兵庫県 神戸市長田区	地域のポンプ場、水道管の被災による断水が想定される。水道が通常の圧力を維持できていれば最上階まで送水は可能。予備の水は３日分保管している。	非常用発電で非常灯、自動火災報知器などの通報装置などは数日間動作可能。	冷暖房はエアコンのみなので停電により使用できなくなる。	停電により厨房の調理用台車、食洗機等が使用できなくなる。非常用の食事は調理せずに提供出来る物を３日分保管している。	毎週配薬があるので４～7日分のストックはある。	オムツ類、ペーパー類の在庫は４～5 日分あるが、トイレの使用可否でオムツ対応に変更する事もあるので消費が早まることもあり得る。	地域の主要道路近くに土砂災害の警戒地域があるため土砂崩れ等で交通遮断が起こりうる。
ゆぁほうむ 榛原	奈良県 宇陀市	飲料水は３日間の備蓄あり、生活用水に関しては貯水。槽と一般浴には常に水を貯めた状態にしている。 しかし、十分とは言えないので、今後の検討を要する。	緊急時電源はあるものの、時間的に十分といえないので、今後検討が必要。	冷暖房にまで電気を送る余裕はないと思われるため、冬は防寒着多数で対応できるかもしれないが、夏の高温への対応は困難と思われる。	25 年貯蓄可能な非常食を備蓄している。また日頃からクックチルでの食事提供のため、五徳とプロパンに関しては、協力業者にお願いして準備していただくことになっている。	系列医療法人や取引薬局との連携しか考えていない。	ローリングストックをしている。 日常的に使用する保存食、飲料水、おむつ、ウエットタオル、カセットボンベ、乾電池常等は 一定量置いておくようにはしているが、どこまで対応できるかは不明。	

所属施設	所在地市区町村	水道	電気	冷暖房	食料	医薬品	衛生用品	その他
古座川園	和歌山県 東牟婁郡	飲料水の備蓄 生活用水については山水を使用できるように整えている。	自家発電機の整備		備蓄品で対応 炊き出し用のかまどを屋外に設置	在庫分での対応 法人内他事業所(老健・診療所)からの協力	在庫分での対応	